

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>ナノデス アクキュライズVII</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.512</b>	△RG <b>0.046</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：アクキュライズVII**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 番

PAPからピンとの距離  
**4-1/2** インチ

MB 4in1/2

研磨剤

**比較対照ボール：アクキュライズVI**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 番

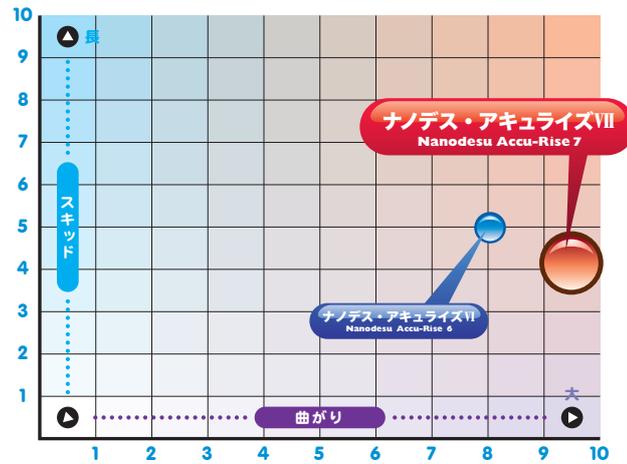
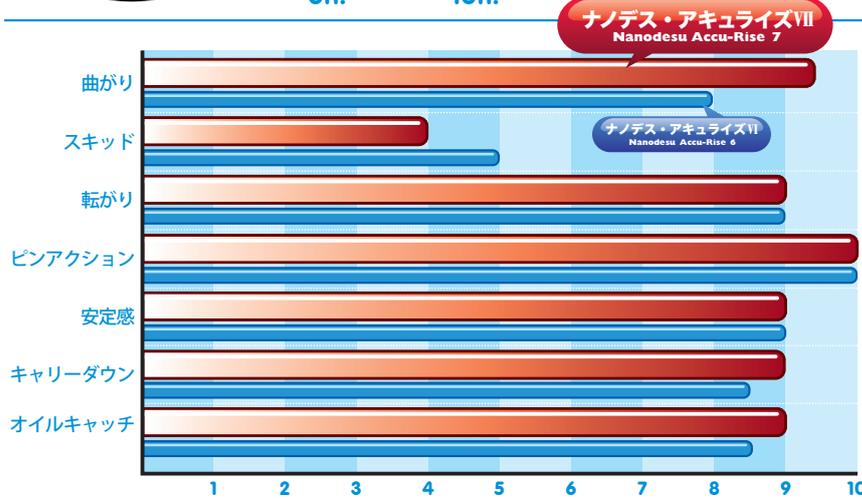
PAPからピンとの距離  
**4-1/2** インチ

MB 4in1/2

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil	Smooth	Early Roll
Light to Medium	Smooth to Arc	Early to Med
Medium Oil	Arc	Med-Lane
Medium to Heavy	Arc to Sharp	Med to Late
Heavy Oil	Sharp Angle	Late Roll

### ボールの評価

日本エポナイト社独自の製法で生まれたNano-Thaneカバーストックは、世界的にみてもこの製法を持っていないオリジナリティな素材で、主流のカバーストックとは一線を介するものです。またこの素材の製法は今までよりもカバーの強弱を明確にできるもので、数値で分類することができます。今回のNANODESU Accu-Rise 7はカバーストックに新領域であるNano-Thane 4.5を使用し、Modified MAX BIG SHUTTLEコアの#1000ポリッシュ仕上げで皆様にお届けします。

カバーの領域はAccu-Rise 3とAccu-Rise 4のちょうど中間のNano-Thane 4.5でPearlが主体の3Tone Pearl(3系統のPearl)で構成されています。コアは初代Accu-Riseでも使用したModified MAX BIG SHUTTLEを使用していますが、カバーのレベルを上げているためAccu-Riseよりも慣性を高め、△RGとIntDiffも下げてカバーとのマッチングを図っています。

印象的なのはMAX BIG SHUTTLEのバックエンドモーションが特徴に現れているところでしょう。左右で比重変更され大きくネジれを発生させられるMAX BIG SHUTTLEは、数値を抑えられてもそのパフォーマンスは特徴は感じられて、特にカバーの強さとのマッチングとを考慮されModifyされた総合的なパフォーマンスは、無論NANODESUシリーズを継承するに恥じない出来です。カバーの数値は高めに設定されていますが、3ToneのPearl調整がキャッチの中にもストレスのないスキッドを感じ、Midから後半にかけて一気に大きくネジれようとします。ストライクアングルに対する入射角も比重変更された調整がよく効いていて、緩みもせず強さを感じます。ただカバーだけを強くするだけでなく、トータルなコントロールができないとこれだけのボールは仕上がらないであろう”さすがNANODESU”と頷ける逸品と皆様も感じていただけるであろう出来栄です。

### 特記事項

**カバーは新採用のNano-Thane 4.5。そのカバーを受け止めるべき比重変更されたMAX BIG SHUTTLEコア。綿密に設計され仕上げられた拘りの逸品を是非お試しください。**